

一般会計決算審査特別委員会から分担された部分を審査するため、8月29日に厚生分科会を開催しました。

## 認定第1号 平成24年度総社市一般会計歳入歳出決算認定

### ～結果～

次のような審査の結果、本分科会に分担された部分については、全員一致で認定すべきであると取りまとめることに決定。

### ～質疑～

問：生活保護費が2,000万円程度の残額があるが、生活保護受給者数が減少しているのか。
答：受給者数は減少はしていない。23年度末で約317世帯、24年度末では321世帯という状況であり若干増えている。できるだけ就労していただき、少しでも収入を得ていただくようお話ししているため、減少しているというのが実態である。
問：就労支援体制は、今までと変わっていないのか。
答：変わっていない。ハローワークへ、外国人の通訳と自立支援員、計2名の体制で行っている。
問：福祉ボランティア活動活発化事業委託料は具体的にはどのような活動をされているのか。
答：社会福祉協議会へ登録しているボランティア団体に対する委託料である。
問：児童虐待防止ネットワーク事業の備品購入費で啓発用着ぐるみを購入しているが、どのような着ぐるみなのか。
答：チュッピーの着ぐるみである。かなり傷んでいるので、安心こども基金を財源に児童虐待防止のタスキと一緒に製作した。
問：チュッピーの着ぐるみが1体で42万5,000円か。 チュッピーの着ぐるみは、着ると周りが見えないような感じで非常に動きが悪い。着ぐるみで人気があるものは、ほとんど動きがかわいくて、見た目もいい。次回、着ぐるみを作るときがあれば、もう少し考えていただきたい。40万円もする着ぐるみを作るのであれば、いい素材があるのだから、もっといいものができるかなあと思う。40万円もするというのに唖然とした。
答：1体でこの金額である。確かにあの着ぐるみを着ると周りが見えなくて、とても1人では歩けないような状態になっている。しかし、あの頭の大きさと体がふわふわとしたような感覚が、子どもに非常に受けている要因の一つではないかと考えている。ちょっと動きづらいというのは確かにあるが、今の形で踏襲をしていきたい。
問：着ぐるみの製作に当たって、入札するとか、少し安く作る方法は考えなかったのか。
答：購入をするときには、2社から見積りを徴して製作した。
問：移動支援事業、日中一時支援事業、訪問入浴サービス事業は、何人くらいが利用

されたのか。
答：移動支援事業は、実利用者が 37 名、年間延べ 2,290 時間。日中一時預かり事業は、実利用者が 99 名、7,345 回。地域活動支援センターは、それぞれ 30 名程度の登録があるが、毎日来られる方はほとんどおられず、随時利用されている。
問：日中一時支援事業は、障害度によって利用条件があるが、皆さん、自分の最大限を使われているのか。
答：最大限ではない。主に就学児童とかの関係もあり、標準的な利用許可は 23 日を目途で出している。ただし、家庭の事情により、例外的に 30 日という方もいる。
問：例外で 30 日というのは、総社市として温かい手を差し伸べているという現状だと思うが、他の市町村でもやっていることなのか。また、23 日よりもっとたくさん使いたいという方は現実にはいるのか。
答：自立支援法ができて市独自事業になった。以前は給付限度というのが示されていたが、今は国からの基準なく、23 日というのは以前の制度を踏襲した暗黙の基準である。余り総社市のように弾力的な運営をしているところはないと聞いている。23 日よりもっとたくさん使いたいという方はいる。
問：いきいきチケット助成金が前年度より増えているが内訳はどうか。
答：23 年度は障がいの方が 17 名、要介護・要支援の高齢者が 321 名であったが、24 年度は、障がいの方が 21 名、要介護・要支援の高齢者が 392 人になっており、高齢者のいきいきチケット対象が増えている。
問：社会福祉協議会の運営補助金の内訳はどうか。
答：主に社会福祉協議会の人件費相当分である。
問：23 年度は結婚相談事業補助金 15 万円があったが、24 年度はなかったのか。
答：事業を実施していない。
問：当初予算、その後、必要に応じて補正を組んでいるはずだが、数千万円の不用額が発生しているものもある。予算の見積りが甘いのではないか。不用額が多額の場合は説明をいただきたい。
答：今後大きな不用額については、何らかの形で説明をするよう考える。
問：市民憲章を唱和する会補助金 40 万 6,000 円について、どのような活動が行われているのか。また、どのようなメンバーで構成されているのか。
答：一昨年総社市で大会が行われ、その後も他県での開催へ参加している。市内での活動は協議会を開催している。メンバー構成は商工会議所会頭等各種団体の長に集まっていた。
問：井原鉄道への経営基盤整備補助金 738 万 5,000 円について、井原鉄道は第 3 セクターだから、総社市も負担をするのは当然であり、様々な PR もしているのは分かる。しかし、平日の乗客数は少ないと思っている。今、ローカル線が注目されているが、井原線自体は非常にいい路線だと思う。総社市として、この利用客を増やす提言をもっともってしていく必要があると思う。補助金を出すだけでなく、

そういった面の総社市からの提案、提言が見えないがどうなっているのか。

答：井原市を中心として経営についての審査会等もあり、出席している。そうじゃ吉備路マラソンの際に、特別なチケットはできないかという提案をしている。

問：小児医療費について、先日市長の発言の中で、1年間猶予するというような発言があったが、8月24日に清音小学校で掃除が行われた際に、こども課の職員が、保護者に対して医療費のことについてお願いや説明をしていた。医療費の持ち出しがどれくらいまでなら持ちこたえられると考えているのか。

答：必要な医療費は別だが、1日のうちに2軒も3軒も行くとか、弟の診察のついでに兄も診察を受けるケースがあると医者から聞いている。今、2億5,000万円強の医療費がかかっている。病気にかかっているときの受診はしっかりしていただきたい。その結果、医療費が増加するのは仕方ない。2億4,000万円程度を想定していたが、2億5,000万円ということになった。無料化をしたがための結果ではないかという懸念があり、今、小学生の保護者へ周知している状況である。

問：医療費を削減するために受診を我慢して大病につながったということもなきにしもあらず。「こんな病気で来なくてもいいのに」というような暴言を吐かれる医者が本当におられるのか。また、そのような状況で病院へ行くような市民は果たしているのか、非常に疑問がある。

答：通常の病気の場合はどんどん行ってください。しかし、実際には、弟が受診したついでに兄貴も診てもらおう方がおられる。そういう方は慎んでほしい。病気を我慢してまで医療費を軽減しようとは思っていない。病気の方は、どんどん病院へ行って、健康を回復してほしい。

問：小児医療費が予想を上回り、持ち出しが増えてきたということで想定外に対する対応の仕方が準備不足であると思う。例えば#8000番もPRが遅い。慌てて啓発をしないとイケないということが問題である。

答：遅かったという感じはある。医療費の無料化を始めた時点では、どんどんどんどん上がってくるということを想定していなかった。1年生までの医療費無料化の実績から、6年生までになった場合を想定した。初年度は想定どおりになった。2年、3年経つうちにだんだん増えてきたため、今のような行動を起こしている。

問：どこの年齢も一番多いのが歯科診療であるが、歯科診療は余りコンビニ受診はないと思う。歯科診療を減らすために歯磨き等の虫歯予防に次年度しっかり力を入れていただきたい。

答：小児医療費の適正化委員会子ども部会の委員からも提言があった。例えば小学校で、昼食後の10分間だけでも、「ここから歯磨きの時間だ」ということで歯を磨く時間を作ってほしい。大規模校では、水道の蛇口も十分ではなくて、歯磨きしたいと思っても、できるような体制は整ってないので、是非、歯磨きを励行するようなキャンペーンというか、プロジェクトのようなものを行ってほしいという話もあった。永久歯が生えてくる小学生から歯科医の受診が増えているので、歯を健康にすることによって抑制するという取組を注視

<p>していききたいと思う。</p>
<p>問：生活保護受給者の医療費が非常に高い。もともと病気で働けなくなり生活が困窮して生活保護を受給されている方はやむを得ないが、保護世帯の医療費もコンビニ受診の懸念はないのか。</p>
<p>答：自費を出してまでは多分検診は行かなのではと思うものもたくさんあり、予防的な意識が高い方も多いと思う。</p> <p>ただ、非常に重症の方が多いのも確かであり、病院に行けない、入院もできないということで、保護を受けているわけだが、ケースワーカーが「定期的に診察を受けていますか。」「1週間に1回は医者に行ってください。」というような指導をしている。お金のことを言うのは申し訳ないが、入院になると非常に経費がかかるので、事前に、事前にというような指導をしている方も多々いる。</p>
<p>問：かなり生活保護世帯が増えてるということで、生活保護係の人数を増やしたが、現在それでうまくいっているのか。</p>
<p>答：24年度から1名増員になった。それまでは、法令の限度80世帯を超えた世帯を持っていたが、今のところケースワーカーが5人いるので、60少々の世帯になっている。人手は何人いてもいいが、他市町村の状況を見ると、総社市は非常にありがたいことだと思っている。</p>
<p>問：自動車騒音常時監視業務委託料について、監視の場所はどこか。</p>
<p>答：岡山自動車道沿線、180号線の沿線、清音真金線の沿線、倉敷清音線で行っている。</p>
<p>問：ごみカレンダーは、毎年4月にまとめて冊子が出ているが、高齢者の方から「自分の地域のごみを出すのがよく分からない。」という意見がある。4月の冊子を失くしてしまうとなかなか難しいものがある。広報そうじゃへ載せると毎月見ることができ、経費削減にもなるのではないか。</p>
<p>答：おっしゃるとおりだと思う。広報そうじゃというのも一つの方法だと思う。広報担当がどういふかというのがあがるが、この点は是非改善をしていきたい。</p>
<p>問：総社市ごみ減量化作戦連合協議会補助金105万円、これは何に使われたのか。</p>
<p>答：一概には言えないが、各地区の婦人会が母体になった組織を中央事務局的に組織している団体が総社市ごみ減量化作戦連合協議会である。この団体が今、環境課の窓口で雑紙等の回収をしている。105万円の使い道は、各地区の組織が視察や勉強会等の開催のための費用が主なものである。</p>
<p>問：整地等業務委託料が167万円余り執行されているが、どなたがおやりになっているのか。</p>
<p>答：最終処分場で重機を扱うためにシルバー人材センターから1人派遣していただいおり、その方に対する経費を委託料としてシルバー人材センターに支払っている。</p>
<p>問：整地作業をシルバー人材センターに委託しているということだが、処分場にいる2人の嘱託員では無理なのか。</p>
<p>答：シルバー人材センターから派遣された者を含めて全部で3人おり、1人は女性の職員で、</p>

事務所で受付事務などを行っている。もう1人の市の嘱託職員は受付事務処理や水処理施設の運転の管理、さらに、搬入された物は、毎日全て覆土をしなければならず、その作業に係っている。

問：一般廃棄物最終処分場の水質検査結果は、どこでどのように公表されているのか。

答：水質の調査については、特に隠しているわけではないが公表はしていない。記録は当然とっており、基準値内である。問い合わせがあれば公にしなければならない数値であるというふうに考えている。

問：9台分の電気自動車購入助成金は個人への助成なのか。

答：電気自動車を購入したときに1件当たり10万円助成している。要件は、市内に本社を置く法人、又は住民票のある個人ということになっている。

問：電気自動車を購入する場合は、岡山市の業者から買っても同じか。

答：買うところはどこでも、総社市民が買った場合に出る。

問：4、5年前、三菱に問題が起きたときに三菱車を買ったら10万円の補助金が出るということをやったとき、市内の自動車販売業者の方から「せっかくそこまでするなら、地元で車を売っている我々のところで買ってほしい。」というような苦情がかなり出た。なぜ市内でという条件をつけなかったのかと我々もかなりお叱りを受けた。是非、今後できれば、電気自動車は日産のでもいいですね。そういう補助金を出すのだったら、市内の販売業者から買う、それを条件に入れていただきたいと思う。よく検討されて、それも議会と相談してという考えを持っていただきたいが、どうか。

答：実は、岡山、倉敷も同じような制度があるが、特に販売店を市内に限定しているところはないように聞いている。総社市もそれにあわせてこのような要綱にした。